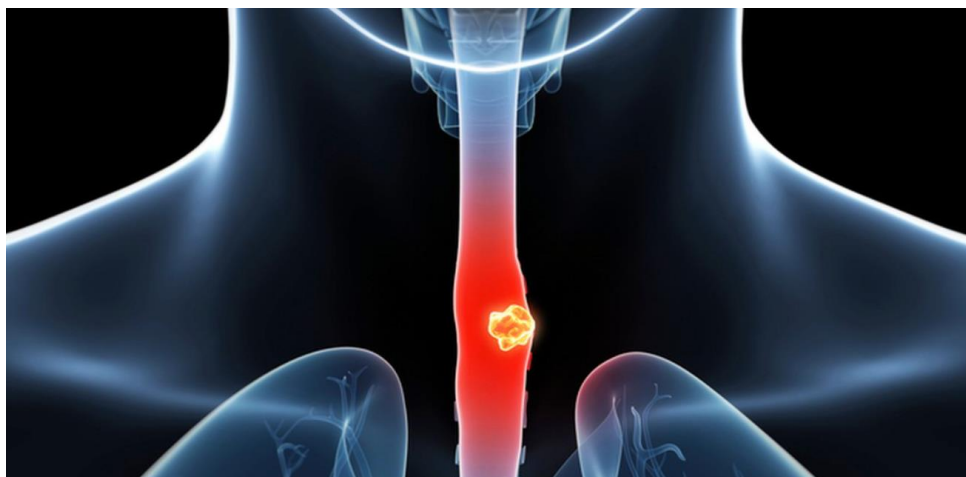


キイトルーダがPD-L1 陽性進行性食道がん患者に有効

米 Merck 社は、進行・転移性食道がんまたは食道胃接合部がんの二次治療における単独療法として抗 PD-1 抗体「KEYTRUDA(R)」を評価する第3相試験の結果を報告。



標準治療後に進行した PD-L1 陽性の扁平上皮がんおよび腺がんを含む食道がんの患者において、KEYTRUDA による治療で化学療法（パクリタキセル、ドセタキセル、またはイリノテカン）と比較して死亡リスクを 31% 低減し、全生存期間（OS）が有意に延長しました（HR=0.69、 $p=0.0074$ ）。



PD-L1 陽性 (CPS \geq 10) 患者 (222/628 名) のうち、OS の中央値は、KEYTRUDA(r) 群で 9.3 カ月 (95% CI, 6.6-12.5)、化学療法群で 6.7 カ月 (95% CI, 5.1-8.2)。さらに、これらの患者における 12 カ月時点における推定 OS 率は、KEYTRUDA 群で 43%、化学療法群で 20%でありました。